

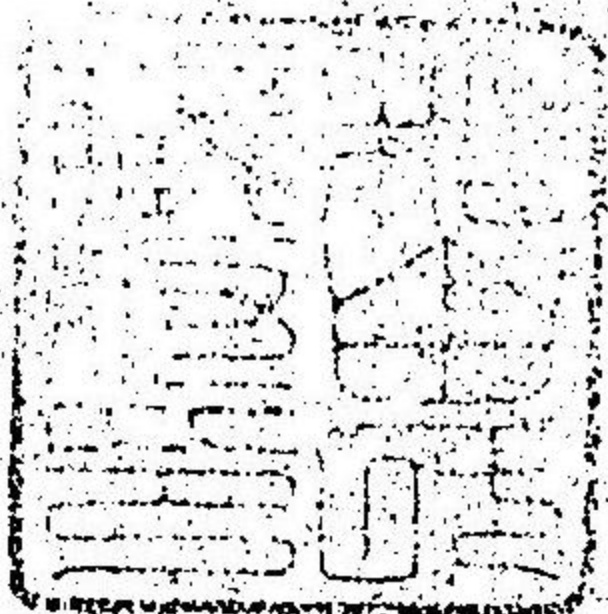
443
6
12

和田順吉口譯
宮崎蘇菴筆記

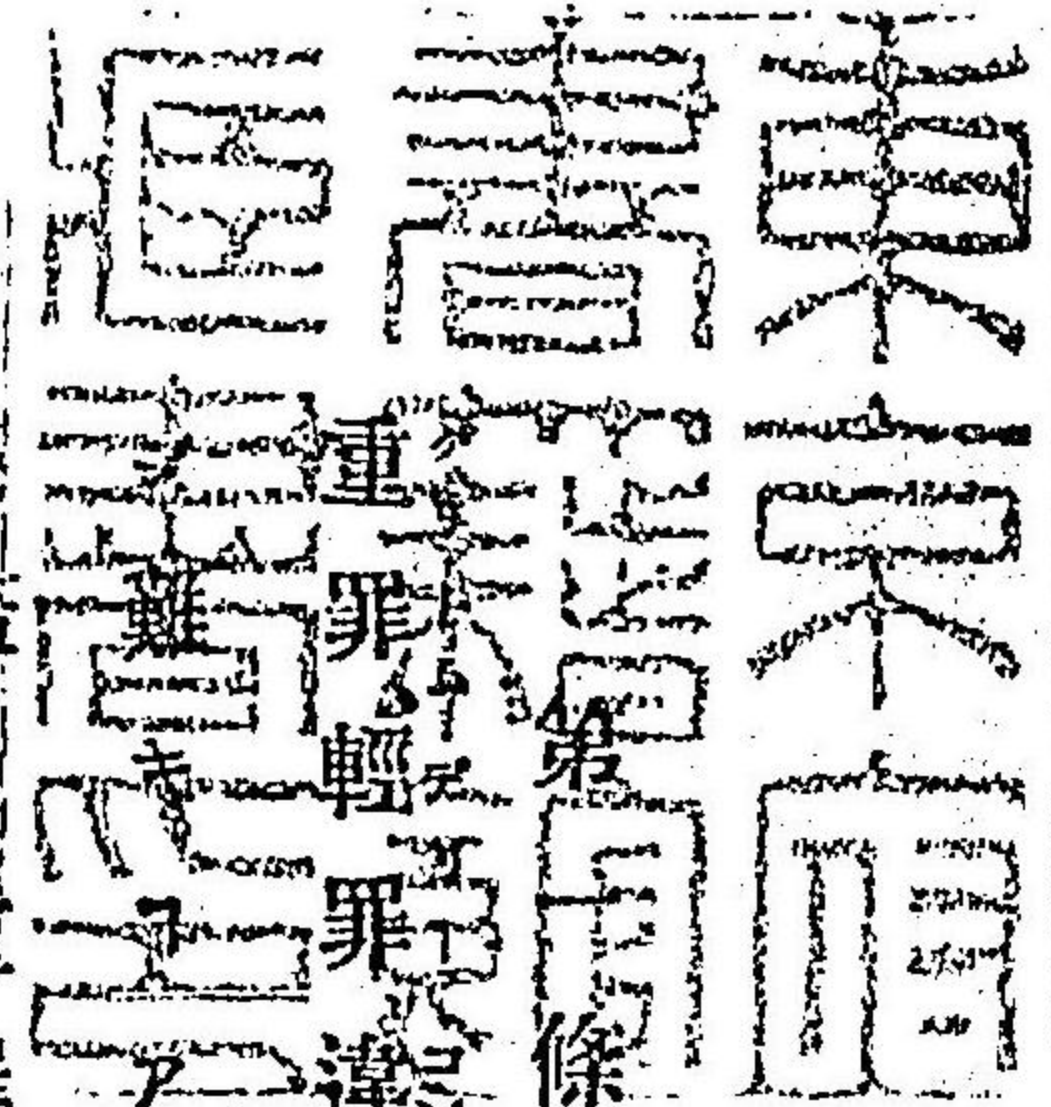
佛國刑法釋義

第壹號

東京書肆
有隣堂發兌



佛國刑法釋義第壹號



條註釋

ト云ヘル語ハ其用方往々混淆シテ區別

アルヲ以テ特ニ第一條ニ於テ其釋義ヲ開示セ

リ蓋シ重罪トハ社會ニ對スル暴行ニシテ重罪裁判所ノ

判決ス可キ犯罪ヲ云ヒ輕罪トハ懲治罪裁判所ノ判決ス

可キ犯罪ヲ云ヒ違警罪トハ警察ノ違犯ニシテ違警罪裁

判所ノ判決ス可キ犯罪ヲ云フ

斯ノ如ク犯狀ヲ區別スルハ人定ノ處罰ニ根據スル所ニ

一 シテ嘗テロツシー氏ノ著セシ刑法論中ニ之ヲ辨駁セリ

和田順吉 口譯
宮崎蘇菴 筆記

二 然レモ第一條ハ唯犯罪ノ性質ニ從テ之ヲ審理ス可キ裁判所ノ權限ヲ示シ以テ刑法施行ノ一定規ト爲スモノニシテ會テ法ノ主義ヲ擧ケタルニハ非サルナリ法ノ主義ヲ以テ之ヲ論スレバ懲治ス可キ犯罪ハ假令違警罪若クハ輕罪ト稱ス可キモノト雖モ法律上ニテ他ノ裁判所ノ權内ニ歸シタルモノニ非サレバ總テ懲治罪裁判所ニ於テ之ヲ審理ス可キモノトス

十五「フラン」以上ノ罰金ヲ科ス可キ犯罪ヲ以テ違警罪ト稱セシ「ア」リト雖モ總テ之ヲ輕罪トス(治罪法第三百三十七條第七十九條刑法第四百六十六條ヲ見合ス可シ)又單ニ違警罪ヲ以テ論ス可キ犯罪ト雖モ懲治罪裁判所ニ於テ判決ス可キ特別ノ場合アリ例ヘハ醫科學士若クハ醫師ノ免狀ヲ有セズシテ猥リニ醫業ヲ爲ス者ノ如キハ其罰金ノ員額ヲ以テ之ヲ云ヘハ違警罪裁判所ノ權内ニ屬スルモノト雖モ亦懲治罪裁判所ニ於テ之ヲ審理シ又損害ノ償金ニ管シテ言渡ス可キ罰金(例ヘハ田野ニ管スル違犯ノ如キモノ)ト雖モ其金額ノ違警罪裁判所ニ於テ言渡ス可キ額數ヲ超過スル場合ニ於テハ懲治罪裁判所ニ於テ之ヲ審理ス

凡ソ犯罪ノ性質ハ審斷セシ處罰ニ從テ確定スルヲ定規ト爲スニ因リ告訴セシ違犯ハ裁判言渡ヲ以テ其犯罪ノ真正ナル性質ヲ確認スルノ理ナリ故ニ檢事職ヨリ重罪若クハ輕罪トシテ告訴セシ違犯ノ對審ニ臨テ輕罪又ハ違警罪ニ止マルト見認メラレタル時ハ則チ輕罪若クハ

三

四

達警罪ノ性質ニ過キザルモノト見做ス可シ
 一箇ノ犯罪ニシテ重罪タル諸般ノ性質アリト雖モ其犯
 入ノ年齢十六歳以下ナレハ之ヲ輕罪トシ懲治罪裁判所
 ニ於テ之ヲ審斷ス可シ
 重罪ヲ以テ告訴セラレタル者ト雖モ之ヲ審問セシニ懲
 治罪ヲ以テ論ス可キ輕罪ニ過キスシテ其告訴ノ日己ニ
 犯罪ノ時ヲ距ル一三年ナレハ則チ期滿得免ノ權ヲ得可
 シ又欠席裁判ニテ施體若クハ加辱ノ刑ニ處セラレタル
 犯人ト雖モ其後對席裁判ニテ陪審ヨリ其違犯ハ輕罪ヲ
 以テ論ス可キモノト述フル時ハ其欠席裁判ノ日ヨリ對
 席裁判ノ日ニ至ル迄既ニ五年ヲ經過スレバ其犯人ヲ刑
 ニ處スルコトヲ得スシテ其犯人ハ既ニ言渡サレタル刑ノ

期滿得免ノ權ヲ得可シ

然レモ陪審ヨリ罪ヲ輕クス可キ情由アリト述フルヲ以
 テ犯人ノ罪ハ懲治罪ニ止ルコトアリト雖モ固ヨリ其違犯
 ノ性質ヲ變更スルニ非ズ(是レ再犯ノ處刑ニ付テ判決セ
 シ所ナリ)故ニ陪審ノ言ニ因テ其刑ヲ寬ニスルコト有ルモ
 人ヲ殺スノ罪犯ナシテ重罪ノ性質ヲ免レシムルコトナシ
 假令其犯人ハ懲罰ニ處セラル、ト雖モ其重罪ノ性質ヲ
 免ル、コトヲ得ズ其期滿得免ノ權ハ重罪ニ就テ定ムル所
 ノ期限ニ由ル可クシテ輕罪ノ期限ニ由ル可カラズ
 第一條ニ記スル所ノ重罪ト云ヘル語ハ法律ニ據リ施體
 若クハ加辱ノ刑ヲ以テ罰ス可キ犯罪ヲ稱スル語ナレモ
 五 亦軍律ニ於テ嚴罰ス可キ犯罪ニ適用スルコト常人律ト異

契約上ノ事故ニ因リ違警罪ニ處セラル、コアリヤ此疑問ヲ解スルニ方リテ亦疑ナキコト能ハズト雖モ茲ニ審案アリ市街ノ泥土、塵芥、汚穢物等ノ掃除ヲ請負ヒタル者ノ其地ノ居民ニ代リテ道路掃除ノ義務ヲ負擔セシニ其請負狀ニ掲クル所ノ條款ヲ履行セズ警察規則ニ違犯シタルニ因リ其居民ノ違警罪ニ處セラレ可キ場合ニ於テハ請負人其刑ヲ受ク可シ

總テ犯罪ノ訴ト刑罰トヲ止ム可キ大赦ノ恩典ヲ拒止スルコトヲ得可キヤ此疑問ニ付テハ治罪法第二條ノ註釋中ニ說ク所アリ

治罪法ノ註釋ニ曰ク大赦ノ恩典ヲ拒止スルコトヲ以テ覆審ノ刑罰ノ言渡ヲ効ナシト其効ナシトシ今此

規則ヲ施行セシ例ヲ擧クハ千八百三十一年三月二十二年五月三十一日ノ護國兵裁判所ニテ其言渡シタル處刑ヲ同如シ故ニ大赦ノ恩典ハ得テ之ヲ拒止ス可カラズ

第二條註釋

人ノ思想ノ未ダ中ニ存シテ發セザル時ハ獨リ上帝之ヲ糺スノ權アルノミ其思想ノ外ニ發露シテ言語行爲トナルニ及ヒテ始メテ人能ク之ヲ審判スルコトヲ得ベシ故ニ最大ノ惡意ト雖モ最重ノ兇謀ト雖モ其心中ニ藏匿スルニ過キザル間ハ其責ヲ免カル、コトヲ得可ク其思念ノ行爲ニ現ハレ社會ノ危害ヲ爲スニ至リテ始メテ其責ニ任ス可シ是レ犯罪ノ企謀ヲ告訴スルノ主義ナリ

第一 總テ犯罪ノ性質ノ事

七 千七百九十一年ノ刑法ハ暗殺及ビ毒殺ヲ謀リシ者ヲ處

スルノ刑ヲ掲ケタルニ過キザリシガ共和第四年草月二十
 十二日ノ法ヲ以テ此刑法ヲ擴張セシヨリ總テ重罪ヲ處
 スルニモ亦之ヲ施用スルニ至レリ其法ニ曰ク重罪ノ犯
 ナ謀ル者其所行ノ外貌ニ現ハレ其端緒ヲ發露シタルニ
 於テハ其後己レノ意外ノ景況ニ因リテ其事ヲ中止スト
 雖モ之ヲ重罪トシテ罰ス可シト而シテ千八百十年ノ刑
 法ハ正ニ此文ヲ用キテ其意味ヲ保續セリ但シ千八百三
 十二年四月二十八日ノ法ニハ所行ノ外貌ニ現ハルハト
 云ヘル語ヲ削除シテ其文ヲ簡約ニセリト雖モ斯ク其文
 ナ削除シタルノ主意ハ唯其繁文ヲ改正シ其繁文ヨリ生
 スル障礙ヲ除去シテ實際ニ便ナラシメタルニ過キザル
 ナリ蓋シ千八百十年ノ法ハ千八百三十二年ノ法ト其主

旨同一ニシテ重罪ノ犯ヲ謀ル者ノ己レノ意ヲ變シテ之
 ヲ中止シタル時ハ之ヲ刑ニ處ス可カラズト云フニアリ
 故ニ其文ニ曰ク重罪ノ犯ヲ謀ル者ノ其犯サントスルニ
 臨ミ自ラ之ヲ中止スル者ハ之ヲ刑ニ處ス可カラス是レ
 審判上ノ正理ニ於テ當ニ然ルベキ所ニシテ社會ノ爲メ
 ニモ亦必要トスル所ナリ何トナレバ犯罪ノ所行ヲ遂ケ
 タル者ト之ヲ遂ケザル者ト等シク刑ニ處スル時ハ犯罪
 ノ所行ヲ中止ス可キ者ヲシテ遂ニ之ヲ果サントスル意
 念ヲ生セシム可キガ故ナリト
 唯犯罪ノ準備ヲ爲スノミニテ其事己ニ發覺シタル時ハ
 唯犯罪ノ思念アリシノミニテ人ノ得テ審判スル所ニ非
 スト爲スノ理ハ宜ク前文ノ主義ヨリ生スベキ所ナリ

然レモ犯罪ノ意念ノ方ニ發シテ行爲トナルヲ認ムルニ
 ハ如何ナル景況ト如何ナル主意トヲ以テ大可キヤ蓋シ
 之ヲ認ムルノ方法ハ法律上ニ規定ス可キモノニ非スシ
 テ宜ク告訴ヲ判決スル法官ノ卓見ト陪審ノ良心トニ任
 ス可キ所ナリ故ニ假令其判定ヲ誤レリト見做ス可キアル
 モ裁判官ノ判決ハ得テ破ル可カラザルノ理アリ
 故ニ重罪取調局上ニ等裁判ニ於テ園籬門柵等ヲ破壊攀援
 シタル者ノ所行ヲ調査シ該事件ヲ以テ重罪ノ犯ヲ爲サ
 ノトスル行爲ノ端緒ト爲ス可カラスト判決スルコト有ル
 モ決シテ法ヲ破ルニハ非ザルナリ

森林ヲ伐取スルノ權アル者其伐ル可カラサル樹木ニ己
 レノ伐ル可キ部分ノ番號ヲ記シタル時ハ其犯人ノ意思
 ヲ審定シタル上其意外ノ景況ニ因リテ其違犯ヲ中止セ
 シコトナキニ於テハ其犯人ハ唯樹木ヲ持テ去ラントスル
 輕罪ノ準備ヲ爲セシ者ト見做ス可クシテ之ヲ以テ輕罪
 ヲ犯サントスル所行ト見做ス可カラズ

然レモ罪ヲ犯サントスル所行ノ端緒ニ付キ若シ裁判官
 ノ謬見アルニ於テハ法ノ正理ヲ誤ルニ至ルヲ以テ宜ク
 覆審ヲ爲ス可キコト決定セリ
 重罪ヲ以テ論ス可キ謀試ノ性質ニ付キ參考ニ供ス可キ
 諸書ハ即チフイランジュリー氏ノ法學論、ベツカリア氏ノ
 犯罪罰法、ロツシー氏ノ刑法論、カルノー氏ノ刑法第二條
 ニ付テノ論說、シヨウウラー氏及ビエリー氏ノ著書、シヨウ

ウラー氏ノ刑法進步論、ローテル氏ノ治罪法、ヂユウエルシユ

氏ノ下調裁判役必携、モラン氏ノ治罪法註釋、ドウィユチウ
ウ氏及ビカレツト氏ノ新法類輯等是レナリ

第二 罪ヲ犯サントスル準備ノ所行ト犯罪ヲ爲
シ遂ケントスル所行トノ區別

園籬門柵ヲ破壊攀援シ並ニ偽鑰ヲ使用スル等ノ所行ハ
未ダ以テ重罪ノ所行トス可カラズ是レ其事ハ重罪ヲ犯
サントスルノ前ニアリテ重罪ノ豫備タリト雖モ未ダ之
ヲ以テ重罪ヲ犯シ始メタリト爲ス可カラザレハナリ
家屋ノ窓戶ヲ破壊シテ未ダ室内ニ潜入セザル前ニ己ニ
視察セラレタルヲ覺リテ遁逃セシ者ノ如キハ其破壊
ノ所行タルヤ固ヨリ重罪ヲ犯サントスルノ目的タルヲ
疑ナシト雖モ未ダ之ヲ以テ竊盜ノ性質ト爲ス可カラズ

是レ他ナシ前文ノ主義ニ據テ判決ス可キヲ以テナリ又
家屋ヲ破壊シテ己ニ室内ニ潜入セシ者ト雖モ之ヲ捕護
シタル時室内ノ物品ヲ掠奪轉亂セシ痕跡ヲ見ザルニ於
テハ之ヲ以テ竊盜ヲ爲サントシタル者トシテ罰ス可カ
ラザルモ亦前文ノ主義ニ根據スル所ナリ故ニ門柵ヲ攀
援シ窓牖ノ格子或ハ玻璃ヲ破壊セシモ忽チ家人ノ出デ
來ルヲ見テ其企謀ヲ中止シタル者ノ如キハ之ヲ以テ竊
盜ヲ爲サントシタル者トス可カラズ
然レモ門柵ヲ攀援シタル後之ニ次テ犯罪ヲ遂ク可キ踪
跡アルニ於テハ其行爲ノ如何ニ瑣末ノ事タリトモ之ヲ
以テ重罪ヲ犯サントセシテ明了ナリトス例ハ家具ヲ
開發シ或ハ物品ノ位置ヲ變轉シタルカ如キ是ナリ故ニ

四一

盜意アリテ室内ニ潜入シ次テ匣櫃ヲ開發セシ者ノ如キハ之ヲ以テ竊盜ヲ遂ケントスル所行ノ端緒ト爲ス可シト判決セリ然レモ亦嘗テ盜ヲ爲スノ目途ニテ門柵等ヲ破壊攀援シタル者ヲ以テ竊盜ヲ遂ケントスル所行ノ端緒ナリト判決シタルコトナキニ非ズ

爲替手形ヲ偽造シテ之ヲ流通セシメントテ思念シ爲替社員ノ姓名ヲ偽稱シ其印章ヲ贗造センガ爲メニ手形ノ原印ニ倣テ之ヲ摸刻セシメタル者ハ偽書ノ犯ヲ爲サントセシ者トシテ之ヲ罰ス可シ

人ヲ殺スノ意ヲ以テ毆撃シタル者若クハ銃口ヲ向ケテ人ヲ殺サント脅迫シタル者ハ其人死セスト雖モ人ヲ殺スノ罪ヲ犯サントセシ者トス

五一

人ヲ毒殺セントスル者其行爲己ニ外貌ニ露ハレ且之ヲ遂ケントスルノ端緒アルモ之ヲ果サステ中止セシ時ハ其中止ノ意ヲ生セシムル原由ノ或ハ其事ノ成ラザルヲ恐ル、ニ出テ或ハ之ヲ果サシニハ其身ノ危難ヲ恐ル、ニ出ル者ト推測ス可キモ亦之ヲ刑ニ處スルコトヲ得ス

又毒殺ノ意アリテ自ラ毒質ノ物品ヲ購求シ他人ヲシテ其事ヲ果サシメントシテ之ヲ附與セシ者ハ假令意外ノ景況ニ由リテ其機ヲ誤ル者ト雖モ之ヲ法律ニ照ラシテ罰ス可キ重罪ノ犯ヲ爲サントセシ者トス可カラス是レ蓋シ毒質ノ物品ヲ購求シテ之ヲ他人ニ付與スルハ重罪ノ犯ヲ謀ル者ト爲スニ欠ク可カラザル行爲ノ端緒タル性質ナキガ故ナリ

重罪或ハ輕罪ノ訴訟ニ付キ其證ヲ述フル時ニ方リ詐偽ヲ以テ其事實ヲ隱匿シタル者ハ假令卒然矛盾闕漏スル所アリテ其述フル所ノ偽證ヲ果サズト雖モ偽證ヲ爲サントセシ者ヲ以テ論シ之ヲ刑ニ處ス可キモノトス豫メ紙券ヲ書シ置キ強テ人ヲシテ之ニ姓名ヲ署セシムルカ或ハ之ヲ交付セシメンガ爲メニ暴行ヲ以テ劫迫ス可キ諸般ノ準備ヲ爲シ其事ヲ果サントスル地ニ人ヲ誘ヒシ時ハ假令意外ノ障礙アリテ後悔ノ念ヲ生シタリト雖モ強テ紙券ニ姓名ヲ署セシメ若クハ紙券ヲ交付セシメタルノ重罪ヲ犯サントセシ者ヲ以テ論シ之ヲ刑ニ處ス

第三 罪ヲ犯サントスル原旨ヲ證スル事

犯罪事件ヲ重罪裁判所ニ移ス裁決書及び犯罪告訴狀並ニ陪審ノ申告書ニハ其罪ヲ犯サントセシ景況ニ付テ諸

般ノ性質ヲ記スルト極メテ緊要ナリトス故ニ犯人ノ律ヲ擬スルニハ唯其罪ヲ犯サントセシト確實ナリト述フルヲ以テ足レリトセス必ス其罪ヲ犯サントセシ所行ハ第二條ニ規定セル性質アルトナ認メテ之ヲ述フルヲ以テ緊要トス但シ此事ニ付テハ數回ノ討議ヲ經タル上尙ホ幾多ノ裁決ヲ經テ正ニ確然タルトナ得タリ然レモ犯罪ノ企謀ヲ遂ケントスル行爲ノ端緒ト其企謀ヲ中止シタルトハ犯罪ヲ重クスルノ景況ニ非スシテ犯罪ノ企謀アリト爲スタメ必要ナル原旨ナリ故ニ此二者ハ陪審ニ問フベキ必要ノ事トス重罪ノ犯ヲ爲サントシタルトニ付テ記スル所ノ告訴狀

ニハ其企謀ノ第二條ニ掲載セル景況ト相合致セシトテ記載スルヲ要ス若シ此事ヲ記載セザレバ告訴狀ノ効ナキモノトス

重罪ヲ犯サントスル企謀ニ付テ陪審ニ問フニ第二條ニ記載セル企謀ノ重罪タル模様ヲ開示セザレバ陪審ノ決斷ヲ効ナシトス

重罪ヲ犯サントスル企謀ノ外貌ニ露ハル、モ意外ノ景況ニ因テ其機ヲ誤レリトシ陪審ヨリ申告スル時ハ未ダ以テ其行爲ノ端緒アリシ模様ヲ包含セザルモノトス犯人某件ノ重罪ヲ犯サントスル企謀ヲ爲セリトシ陪審ヨリ申告シテ其意外ノ景況ニ因テ行爲ノ端緒ヲ止メタリト陳述セザル時ハ其犯人ニ重罪ノ犯ヲ爲サントシタル者トシテ裁判言渡ヲ爲ス可カラズ

重罪ヲ犯サントスル企謀アリト雖モ重罪ニ擬ス可キ景況ナシト陪審ヨリ申告スル時ハ其企謀ナキモノト見做ス可シ決シテ其申告ヲ拒ムコトナカル可シ

人ノ來ルヲ待テ害ヲ加ヘントセシ事件ニ付キ陪審七名以上十二人トスヲノ申告ニ因リ其罪ノ有無ヲ決斷スルノ法ヲ以テ其企謀如何ノ申告ヲ爲シタルモノトス可カラズト判決セリ是レ蓋シ人ノ來ルヲ待テ害ヲ加ヘントスルコトハ法律上ニテ犯罪ノ企謀ナシトスル場合ニ於テモ亦之ヲ犯スコトアルガ故ナリ

人ヲ殺サント謀ル者己レノ意ニ管セザル景況ニ因テ其事ヲ中止セシニ非ザルモ其企謀アルヲ以テ之ヲ罰ス可シ

ト陪審ヨリ申告スル時ハ被告人ヲ赦宥ス可キモノトス
 豫メ人ヲ殺サント謀リ且第二條ニ掲載スル所ノ景況ト
 符合スルニ付キ陪審ノ意見ヲ問フニ陪審ヨリ然リ。被告
 人ヲ刑ニ處ス可シト答フルト雖モ若シ此答辭ニ限界ヲ
 加ヘテ景況ナシト云フ時ハ其景況ト云ヘル語ハ豫メ人
 ニ害ヲ加ヘントセシ景況タルヤ又ハ重罪ノ企謀タル景
 況タルヤ何レモ主トシテ之ヲ云フニ非ズ故ニ斯ノ如キ
 場合ニ於テハ再問判決ヲ爲ス可キモノトス
 盜犯ヲ爲サントセシ企謀ヲ審理スルニ方リテ陪審ヨリ
 其企謀ノ端緒ヲ露ハシ且意外ノ景況ニ因テ其企謀ヲ中
 止シ或ハ其機ヲ誤レリト申告セザルニ於テハ之ヲ以テ
 重罪ヲ犯サントセシ者ト爲ス可カラザルガ故ニ之ヲ刑

ニ處スルヲ得ズ

第二條ニ掲ル如キ重罪タル景況ヲ擧ケテ陪審ノ意見ヲ
 問フニ陪審ヨリ罪ヲ重クス可キ景況アルヲ以テ犯人ヲ
 刑ニ處ス可シト答フル時ハ之ヲ以テ重罪ノ企謀アリシ
 トヲ確定スルニ足レリ
 豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ其來ルヲ待テ故意ヲ以テ銃
 撃一發セシ證アリトニ陪審ヨリ申告スル時ハ未ダ以
 テ陰殺ノ犯ヲ爲サントセシ者ト爲スニ足ラズ人ヲ殺ス
 ノ意ヲ以テ射撃セシト加ヘテ申告セシトヲ要ス
 人ヲ殺サントスル企謀ヲ告訴スル場合ニ於テ銃撃一發
 セシト告知時ハ之ヲ以テ重罪ヲ爲シ遂ケントスル行
 爲ノ端緒ト爲スニ足レリ

犯罪ノ第一ノ景況露ハ爲シノ端緒ヲハ確實ニシテ疑フ可カ
 テザルモ其第二ノ景況ヲ犯人ノ意外ノ景況ニ因テ其企謀
 確實ナラスシテ第一ノ景況ニ據リテ之ヲ考定ス可キ時
 ハ即チ第二ノ景況ヲ第一ノ景況ニ合シ其企謀ヲ重罪ト
 シテ刑ニ處スルニ足レリ
 犯罪告訴狀ニ掲クル所ハ既ニ爲シ遂ケシ重罪犯ニ係ル
 ト雖モ吟味ノ上其犯罪ノ企謀ヲ審問ス可キトアレハ之
 ヲ陪審ニ附シテ其意見ヲ問フヲ得ベシ
 アルシエリ佛朝西ノニ在ル常立兵事審院ニ於テモ通常
 ノ諸裁判所ニ於ケルカ如ク其審判シテ言渡ヲ爲ス可キ
 犯罪ノ性質ヲ擧ク可キガ故ニ陰殺ヲ爲サント謀リシ者
 アリテ之ヲ刑ノ言渡ヲ爲スニ當リ其企謀ヲ罰スルニ必

要ナル景況ヲ掲ケザル時ハ其裁判ハ之ヲ破毀ス可キモ
 ノトス

第四 第二條ニ擬ス可カラザル特例

第二條ハ其文意廣シト雖モ之ヲ概用ス可カラザル特例
 數件アリ此特例ハ或ハ刑法ノ文面ニ根據スルモノアリ
 或ハ其明文ナシト雖モ其主旨ヨリ生スルモノアリ例ヘ
 ハ陰殺(第八十九條及ビ第九十條)贗造變造(第三百三十二條
 以下)墮胎(第三百十七條第二項及ビ第三項)十三歳以下ノ
 者ニ對スル猥褻ノ所行(第三百三十一條)若クハ人ヲ欺テ
 偽證ヲ爲サシメタル(第三百六十五條)等ノ如キハ之ヲ
 第二條ニ照ラス可カラザルモノトス
 皇帝ノ身體ニ對シ暴行ヲ爲サントスル準備ノ所行ハ第

二條ニ掲クル如キ企謀ノ性質ナシト雖モ之ヲ刑ニ處ス可シト判決セルモノハ即チ第二條ノ例外ニシテ第九十條ノ如キハ皇帝ノ生命身体ニ對シ暴行ヲ爲シ第二條ニ擬ス可カラザルモノトス

國ノ内部ノ安寧ヲ害ス可キ暴行ニ付テハ其行爲ノ如何ヲ問ハズ之ニ着手シタルヲ以テ其企謀アリト爲ス可カラス必ス第二條ニ定ムル所ノ重罪タル性質アリテ始メテ其企謀アリト爲ス可シ

第四百四十條、第四百四十一條及び第四百四十二條ハ二三ノ重罪ヲ擧ケテ其罰則ヲ示スモノニシテ第二條ニ記スル所ノ一般ノ主義ヲ害スルコトナシ故ニ此數條ニ掲ケタル重罪ヲ犯サントスル企謀及び物品ヲ破滅毀損スル

如キ重罪ヲ犯サントスル企謀ハ之ヲ第二條ニ照ラシテ處分ス可シ

貨幣、證書等ノ贋造變造ノ重罪ハ第二條ノ規則ニ照準ス可カラザル一特例ト爲スト雖モ其明文アルニ非ズ唯其主義ニ據テ之ヲ特例ト爲ス可キモノトス是レ實ニ贋造變造ノ眞理ヲ推究スル時ハ盜犯又ハ詐僞ノ倒産ヲ爲シ遂ク可キ豫備ノ所行タルコト疑ナキガ故ナリ然レモ法律上ニ於テ其贋造變造ヲ爲セシ者ヲ贋造變造ノ貨幣證書等ヲ使用セシ者ト區別シテ重罪ト爲セシガ故ニ(第三百三十二條、第四百四十七條)第二條ニ掲クル景況アル時ハ其企謀ヲ以テ即チ重罪ト爲スニ至レリ

人ヲシテ他人ノ名ヲ用ヰテ詐僞ノ契約ヲ爲サシメ公證

人ノ面前ニ出デ其者ヨリ己レニ贈遺ヲ爲ス可キ證書ヲ
 記セシムル者ハ其證書ニ公證人ノ調印完備セザルヲ以
 テ其事ヲ果サズト雖モ偽造ヲ爲サントセシ企謀ノミヲ
 以テ即チ偽造ナリトス
 墮胎ヲ爲サント謀ル者ハ其企謀ヲ以テ即チ重罪ナリト
 シ之ヲ刑ニ處ス可シ是レ第三百十七條ノ第二項及ビ第
 三項ニ明記スル所ニシテ第二條ニ擬ス可カラザル特例
 トス此他墮胎ヲ爲サント謀ル者ハ總テ其企謀ノミヲ以
 テ即チ重罪ナリトス
 父母ニ對シ毆擊暴行ヲ爲サント謀ル者ハ唯其企謀ノミ
 ナ以テ之ヲ重罪ニ擬ス
 十三歳以下ノ者ニ對シテ猥褻ノ所行及ビ暴行ヲ爲サン

トスル犯罪ニ付テハ第三百三十一條及ビ第三百三十二
 條ノ註釋ニ之ヲ詳記ス可ク又重婚未ダ前婚解ケザル中
 更ニ再婚スルヲ云フヲ爲サントスル犯罪ニ付テハ第三百四十條ノ註釋中ニ
 於テ之ヲ論ス可シ
 重罪ヲ犯サント謀ル附從ハ既ニ重罪ヲ犯セシ附從ト同
 シク之ヲ首謀ト同刑ニ處ス可シ是レ第二條及ビ第六十
 條ニ據ル所ニシテ第二條ニ云ヘル景況アレハ則チ重罪
 ノ企謀ノミヲ以テ之ヲ重罪ト看做シ其附從ヲ首謀ト同
 刑ニ處ス可キガ故ナリ第六十
 條參考
 第三條註釋
 單ニ輕罪ヲ犯サントスル企謀ハ其證據ノ得難キ原由ヲ
 以テ或ハ社會ノ危害ト爲スニ足ラザル原由アリ之ヲ

告訴ス可カラズ然レモ其證據ノ得易クシテ且危害アリト考定ス可キ場合ニ於テハ之ヲ審判スルヲ通規トス輕罪ヲ犯サントスル企謀ノミヲ以テ輕罪ト看做ス可キ別段ノ場合ニ於テ重罪ノ企謀タル景況ニ關スル規則ヲ引用ス可カラズ是レ即チ立法官ノ第二條ノ規則ヲ第三條ニ推及セザル所ナリ故ニ詐僞ノ倒産ノ輕罪ヲ犯サントスル企謀ハ之ヲ第二條ニ照ラシテ處分スルコトヲ得ズ懲治罪裁判所ハ唯犯罪ノ事件ト犯人ノ權利トヲ審理ス可キ所ナルヲ以テ犯人ヲ刑ニ處スル爲メニ其輕罪ヲ犯サントスル企謀ノ有罪タルヲ確審スルヲ以テ足レリトシ其企謀ノ徵憑タル景況ヲ明證スル義務ナシ輕罪ヲ犯サントスル企謀ノミヲ以テ輕罪ト看做ス可キ

別段ノ規則ハ第七十九條、第二百四十一條、第二百四十五條、第三百八十八條、第四百條、第四百一條、第四百五條、第四百十四條、第四百十五條ニ列記スル所ノ數件ニ過キズ物價ノ高低ヲ生ゼシメントスルノ目的ヲ以テ黨與ヲ爲ス者ハ其犯罪ヲ爲シ遂ク現ニ物價ノ高低ヲ生ゼタルニ非サレバ之ヲ罰ス可カラズ詐僞ヲ用キテ單ニ家資分散ヲ爲サントスル者ハ之ヲ刑事ノ訴訟ニ付ス可カラズ收蓄ヲ刈取スル輕罪ヲ犯サントスル企謀ハ之ヲ輕罪ト看做ス可キ企謀中ニ加ヘザルヲ以テ其懲罰ヲ免カル可キモノトス又森林ニ關スル輕罪ヲ犯サントスル企謀ハ之ヲ輕罪ニ擬ス可カラズ

千八百三十二年三月二十一日ノ法律ノ徵兵第四十一條ハ
 一時若クハ久時ノ別ナク少壯輩ノ兵役ヲ免カレシムカ爲
 メニ自ラ身體ヲ兵務ニ任シ難ク爲シタルノ證アル者ヲ
 罰スル所ノ規則ニシテ刑法第三條ニ記スル如ク唯輕罪
 ヲ犯サントスル企謀ノミナレバ之ヲ刑ニ處ス可カラザ
 ル一般ノ主義ニ悖戻スル條ヲ掲載セルコトナシ
 詐僞ヲ用ヰテ密賣品ヲ輸入スル輕罪ヲ犯サントスル企
 謀ハ其企謀ノミヲ以テ輕罪ト看做シ之ヲ刑ニ處スルモ
 ノハ此事ニ管スル別段ノ法律アルニ因レリ
 詐僞ノ新聞又ハ政府ヲ動搖セントスル新聞等ヲ發兌ス
 ル者ノ處刑ニ付キ千八百十五年十一月九日ニ發行セル
 法律モ亦其第八條ニ輕罪ヲ掲ルト雖モ其企謀ノミヲ以

テ輕罪ト看做スノ主意アルコトナシ又千八百四十九年七
 月二十七日ノ法律出版第四條惡意ヲ以テ詐僞ノ新聞若
 者等ヲ處スル條千八百五十二年二月十七日ノ決定書規
 則第十
 五條ハ詐僞ノ新聞等ヲ出版シ若クハ之ヲ騰寫廣布シ若
 者ヲ處スニ揭ル所ノ輕罪モ亦其犯サントスル企謀ノミ
 ヲ以テ之ヲ輕罪ニ擬ス可カラザルノ主義タリ
 違警罪ニ付テハ其犯サントスル企謀ノミヲ以テ既ニ爲
 シ遂ケタル違警罪ニ擬ス可キ法律アルコトナシ

明治十年八月十六日版權免許

口譯兼出版人

和田順吉

東京第五大區七小區
下谷中徒町四丁目
三十五番地

東京書籍問屋

發兌人

穴山篤太郎

第一大區七小區
南傳馬町二丁目
十三番地

賣 捌 書 林

東 京 同 同 同 同 同 同

北畠茂兵衛
山中市兵衛
村上勤兵衛
丸屋善七
須原鉄次
木村源兵衛
江島喜兵衛

東 京 圖 書 館

新 門 一 函

一 部 一 架

四 九 七 號 類

東京圖書館
新門一函
一部一架
四九七號類

743
6
12

佛國刑法釋義

和田順吉口譯
宮崎蘇菴筆記

東京書肆

有隣堂發兌

第壹號

036181-000-5

特54-457

仏国刑法釈義 第1号

和田 順吉/口訳

M10

BBP-0850

